



ホストタウンの縁 -えん-

6月27日(火)から30日(金)の期間に、トリニダード・トバゴ共和国の政府関係者など4名が大崎町を訪れ、リサイクルの取り組みを視察しました。

これまでのトリニダード・トバゴとの関わり

本町は「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会」で中南米の陸上強豪国「トリニダード・トバゴ共和国」のホストタウンに登録されていました。令和元年5月、同国の陸上チームが「IAAF世界リレー 2019横浜大会」の事前合宿に本町を訪れ、ジャパンアスリートトレーニングセンター大隅においてトレーニングや町内の小学校を訪問して陸上教室を開き交流しました。その後の事前合宿受け入れは、新型コロナウイルス感染拡大の影響により断念しましたが、ホストタウンという関わりから発展し、在トリニダード・トバゴ日本国特命全権大使である松原大使がリサイクルの取り組みを視察するなど、その後も継続した交流が続いています。



▲▼ 前回の交流の様子 大崎小(上)・菱田小(下)



今回の視察は、太平洋^{とうしよこく}島嶼国地域およびカリブ地域を中心に国際開発協力をおこなっている一般社団法人国際協力推進協会 (APIC) から、同国の政府関係者や廃棄物処理事業者に、住民・企業・行政が協力し、リサイクル率日本一を14回達成した本町の取り組みについて教えてほしいと依頼があり、大崎町SDGs推進協議会を中心に町内企業や役場環境政策課が連携して受け入れをおこないました。

埋立処分場を見学

リサイクルの取り組みが始まった経緯や、住民・企業・行政で協力しあい取り組んでいる大崎リサイクルシステムを説明しました。

こんなにきれいな埋立処分場を見たことがありません。とてもおどろきました！



家庭を見学

家庭内での分別の取り組みを実際に見学しました。

家庭での分別が重要視され、住民の努力でこのリサイクルシステムが成功を収めている。住民の努力が鍵になっていると思いました。

